



～目指す人間像～

「ふるさと岐阜」で育んだ自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人

～岐阜県が求める教師像～

- 児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師
- ◎ 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師（高い倫理観・使命感）
 - ◎ 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師（確かな専門性）
 - ◎ 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師（学び続ける向上心）

| | スタートライン | 【基礎形成期】 | 【資質向上期】 | 【資質充実期】 | 【資質貢献期】 |
|----------------------|---|--|--|---|---|
| | | 意欲的に保育実践や集団づくりに取り組み、教職の基礎を固める。 | 園の中核として実践を積み上げ、専門性を高め、推進力を発揮する。 | 活力ある園運営を企画・調整・実践し、リーダーシップを発揮する。 | 園の管理や同僚への指導を行い、広い視野で組織的な運営を行う。 |
| 保育 | 保育構想 | 幼稚園教育要領のねらいや内容、内容の取扱い等を踏まえ、幼児一人一人への願いを明確にした指導計画を作成することができる。 | 小学校への円滑な接続を見通して、発達課題を踏まえて指導計画を作成することができる。 | 自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 | 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 |
| | 保育実践 | 各領域のねらい・内容を含めた総合的・一体的な保育となるよう環境の構成を適切に行うことができる。 | 各領域のねらいとその特性を理解し、幼児一人一人が健やかに成長できるよう指導・援助を行うことができる。 | 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 | 自園の課題を踏まえ人形形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 |
| | 評価改善 | 指導計画に基づいて幼児一人一人の活動の様子を見届け、長期及び短期の指導に生かすことができる。 | 保育の評価を適切に行い、継続的な保育の改善を行うとともに、各領域の特性に応じた指導力の向上に努めることができる。 | 自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 | 他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。 |
| 教育環境の創造 | 幼児理解 | 進んで声をかけ、共に活動をする中で、幼児一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 | 幼児の言動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。 | 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 | 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 |
| | 生活の展開 | 問題等を早期に発見し、関係職員に相談して迅速に対応することができる。 | 関係職員と共に幼児の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。 | 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 | 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 |
| | 発達の課題 | 幼児一人一人の発達の課題に応じた基本的な生活習慣の指導を行うことができる。 | その年齢の発達の課題に応じた生活が展開できるなど、自己有用感が育まれるような指導を行うことができる。 | 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となることができる。 | 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。 |
| 経営・分掌 | 学級・学年・園経営 | 担当する分掌の役割を理解し、責任をもって行うことができる。 | 担当する分掌に軸足を置きながら、園全体も意識して、課題を改善しながら分掌を果たすことができる。 | 自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 | 自園の教育目標実現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 |
| | 連携・協働 | 他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。 | 組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。 | 他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 | 広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 |
| | 危機管理 | 幼児の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。 | 事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。 | 関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 | 自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。 |
| 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応 | 一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの保育に生かすことができる。 | 多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。 | 全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・継続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 | 幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。 | |
| ICTや情報・教育データの活用 | ICTを活用した保育や校務の推進及び幼児に情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための保育実践等を行うことができる。 | ICTを効果的に活用した保育実践等を行い、校務の効率化及び幼児の学びや生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。 | 自らのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 | 自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。 | |

【基礎形成期】

【資質向上期】

【資質充実期】

【資質貢献期】

- ・自分の得意な内容、領域を見付けられる。



- ・自分が得意な内容、領域を磨いている。
- ・他の人がもっているものよさに気づき、取り入れてみる。

- ・自分の知恵や経験が他の人に有用であることに気付く。
- ・異なる見方や価値観を受け入れ、面白いと感じる。

- ・若手や同僚に共感する。
- ・自分の知恵や経験を活かす場がある。

教員が成長し続けるために大切な姿